

平成 28 年度  
業 務 年 報

目 次

1	沿革	1
2	業務概要	2
3	機構（組織・職員）	3
4	施設（土地・建物）	4
5	設備	5
6	業務実績	8
7	役員名簿	13

宮崎県機械技術センター  
公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

〒882-0024 延岡市大武町 39-82

TEL (0982)23-1100

FAX (0982)23-1104

URL <http://www.mmtc.or.jp/>

E-mail [info@mmtc.or.jp](mailto:info@mmtc.or.jp)

## 1 沿革

県北における工業技術に関する試験研究指導機関の歴史は、昭和 11 年に都城市北原町に設置された県立工芸指導所の延岡分所に始まる。その後、昭和 14 年に機械工訓育所が併設され、県北の産地型技術指導機関として中小企業の技術指導と技術者の養成に貢献した。しかし、戦後の混乱期に、これら指導所、訓育所は相次いで閉鎖の止むなきに至った。

その後、昭和 22 年に、戦後産業復興の一環として、工業の振興が本県産業の振興に寄与するとの観点から、昭和 23 年 3 月、県都宮崎市に、工業技術の振興を図るための総合的試験研究指導機関として県立工業試験場が設立され、都城市にはその分場として、昭和 22 年に設置されていた木工技術員養成所を吸収合併し、都城分場が設置され、その内容の充実が図られた。このような情勢の中、工業集積の高い県北では、昭和 35 年頃から、都城分場に対応する延岡分場の設置要望が起り、特に、昭和 39 年に日向延岡地区が新産業都市の指定を受けて以来、分場誘致運動が活発となり、さらに、昭和 49 年に延岡市に鉄工団地が建設されたことで、機械・金属工業部門の技術指導機関設置への要望が一段と高まった。

これらの地元の要望に応じて県では、昭和 54 年 4 月に、第一次オイルショック後の県北の特定不況地域の指定に対応する施策の一環として、延岡市大武町に宮崎県機械技術センターを設立することとなった。

昭和 35 年	延岡商工会議所より工業試験場分場設置について陳情
昭和 45 年	延岡商工会議所より機械金属技術指導機関の設置について県に要望書提出
昭和 48 年	延岡鉄工団地協同組合より工業試験場分場設置について陳情
昭和 50 年	延岡市議会議長より県工業試験場延岡分場誘致に関する陳情書を県に提出
昭和 51 年	延岡市長、日向市長及び門川町長が連名で工業試験場分場設置について県議会に請願 県議会において請願採択
昭和 53 年	県議会において公の施設に関する条例の改正（宮崎県機械技術センターの設置）を議決 宮崎県機械技術センター建設工事着工
昭和 54 年	財団法人宮崎県機械技術振興協会を設立 宮崎県機械技術センター完成 宮崎県機械技術センター業務を開始。宮崎県は 4 月 1 日付けで宮崎県機械技術センターの 管理、運営業務の委託について、財団法人宮崎県機械技術振興協会と契約を締結 宮崎県機械技術センター竣工式を挙げる
昭和 55 年	昭和 55 年度より 3 ヶ年計画により指導設備の整備を実施
昭和 61 年	宮崎県機械技術センター強化整備計画により別棟工事着工（日本小型自動車振興会補助）
昭和 62 年	別棟工事完工 昭和 62 年度より強化整備計画による指導設備の整備を開始 財団法人宮崎県機械技術振興協会が中小企業事業団及び宮崎県の委託を受けて、地域の加 速的技術開発支援事業を実施
平成 7 年	延岡市内の機械金属関連企業を対象に延岡地域特定中小企業集積活性化支援補助事業を実施
平成 9 年	ホームページを開設し、情報発信機能を整備
平成 13 年	日向・門川・延岡地域の機械金属関連企業を対象に日向延岡地域特定中小企業集積活性化 支援補助事業を実施
平成 17 年	ホームページを再構築し、情報発信機能を強化 県北モノづくりセミナーを開催、またテクニカルフェローシップ制度を導入
平成 18 年	指定管理者制度に基づき宮崎県機械技術センターの管理者に指定（H18～H20）
平成 20 年	テクニカルアドバイザー制度を導入
平成 21 年	指定管理者制度に基づき宮崎県機械技術センターの管理者に指定（H21～H25）
平成 25 年	公益財団法人宮崎県機械技術振興協会に移行
平成 26 年	指定管理者制度に基づき宮崎県機械技術センターの管理者に指定（H26～H30）

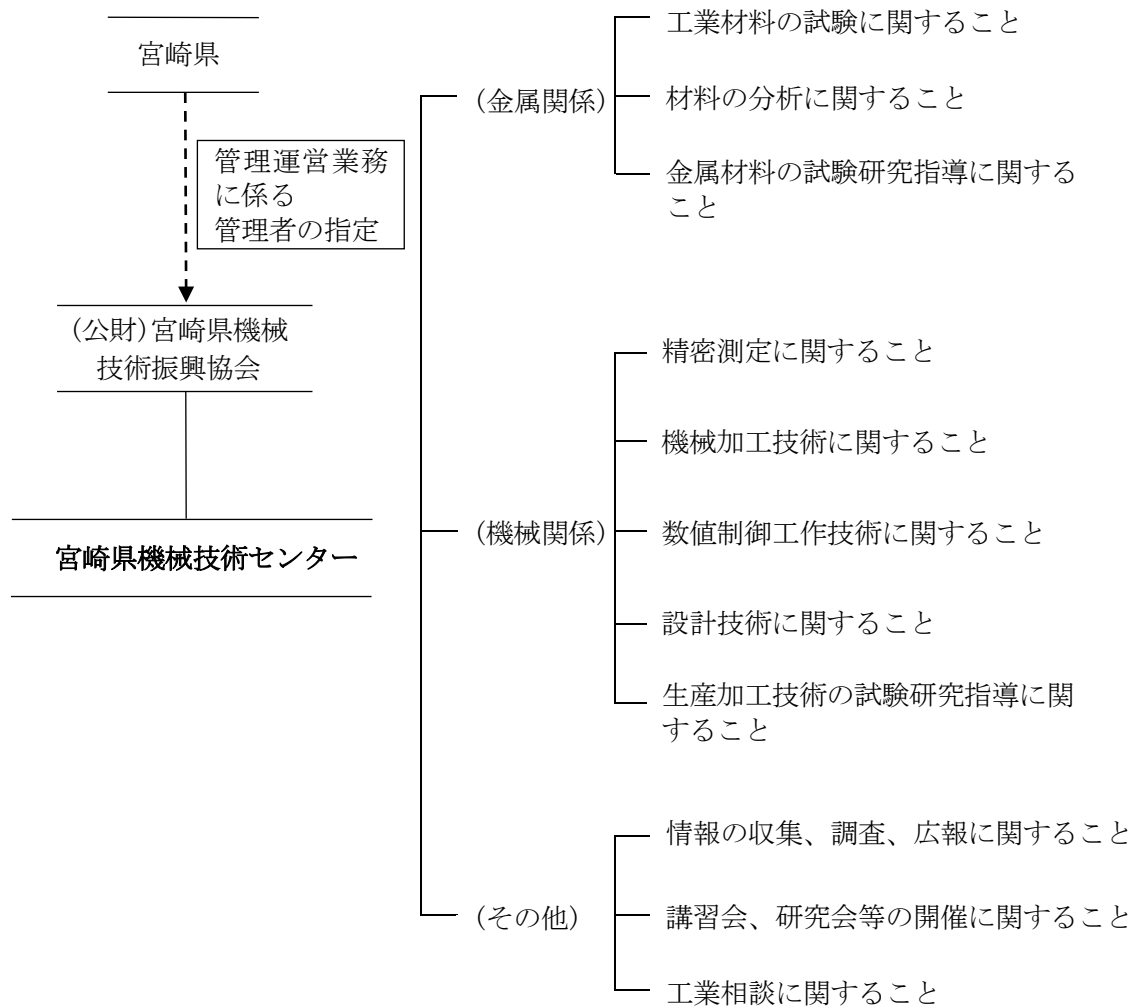
## 2 業務概要

宮崎県機械技術センター（以下「センター」という。）は、県内機械金属工業の振興を目的とし、主として県北を中心とする関連企業を対象に、機械金属技術に関する各種の支援業務を行っている。なお、当センターの管理運営は宮崎県の指定により、(公財)宮崎県機械技術振興協会がこれを行っている。

- (1) 技術の向上を目的とした業務
  - ① 技術相談・指導
  - ② センター機械設備の取扱研修の開催
  - ③ 技術講習会、技術セミナーの開催
  - ④ 専門家等派遣による現場指導又は技能伝承の実施
  - ⑤ ものづくりに係る品質向上の指導の実施
  
- (2) 試験研究に関する業務
  
- (3) 設備利用に関する業務
  
- (4) 依頼試験に関する業務
  
- (5) 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修に関する業務
  
- (6) 宮崎県工業技術センター等他機関との連携に関する業務
  
- (7) 補助金等申請に関する支援業務
  
- (8) 情報の収集と発信に関する業務

### 3 機構

#### 3-1 組織



#### 3-2 職員一覧

(平成 28 年 4 月 1 日現在 6 名)

職名	氏名	備考
所長	鳥越 清	(公財)宮崎県機械技術振興協会常務理事
主査	知念 武志	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
主任技師	石黒 圭亮	宮崎県派遣職員
専門技師	福島 洋一	有期雇用職員
技師	奈須 美喜	有期雇用職員
主事	黒木 美保	有期雇用職員

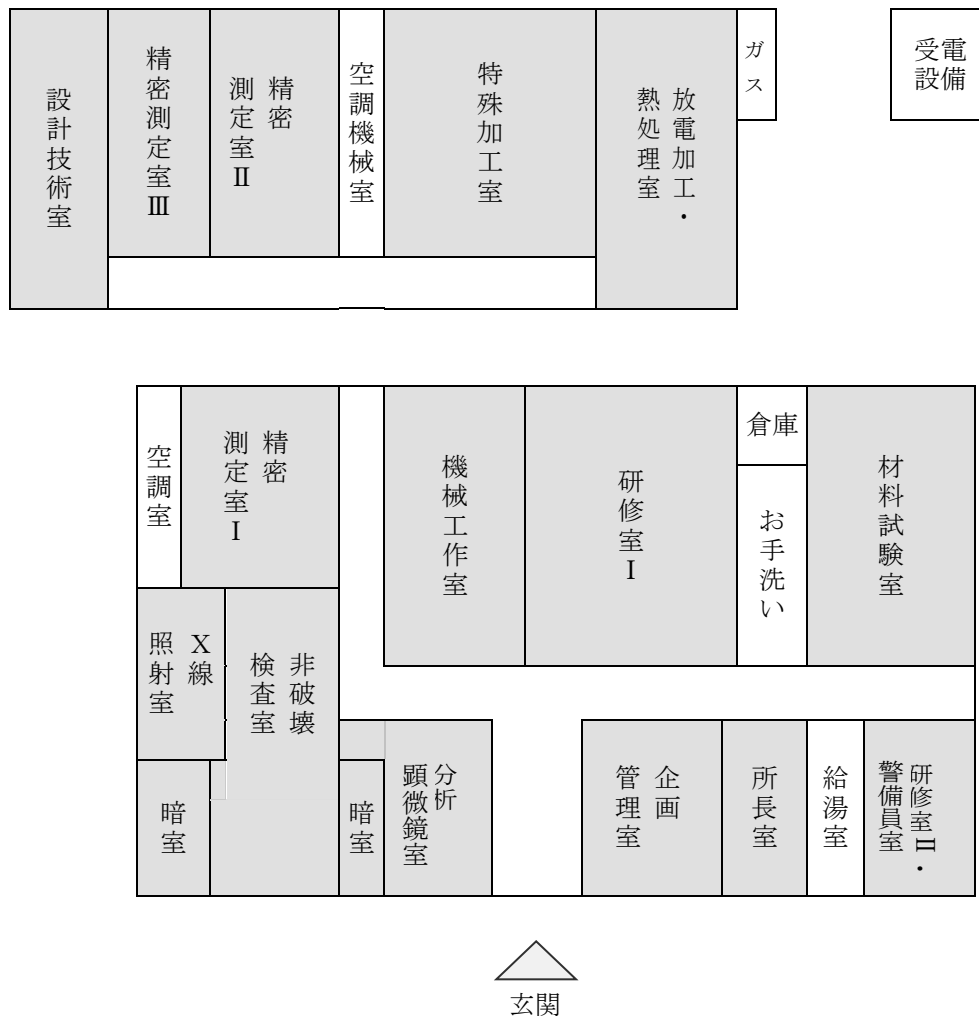
## 4 施設

### 4-1 土地・建物

所在地 宮崎県延岡市大武町 39 番地 82  
 敷地 2,682.45 m<sup>2</sup>  
 建物 809.38 m<sup>2</sup> (本館 540 m<sup>2</sup>, 別棟 226.5 m<sup>2</sup>, その他 42.88 m<sup>2</sup>)

企画管理室	30.3 m <sup>2</sup>	機械工作室	48.4 m <sup>2</sup>
所長室	20.2 m <sup>2</sup>	設計技術室	28.9 m <sup>2</sup>
研修室Ⅱ・警備員室	20.2 m <sup>2</sup>	精密測定室Ⅲ	21.4 m <sup>2</sup>
研修室Ⅰ	76.0 m <sup>2</sup>	精密測定室Ⅱ	33.2 m <sup>2</sup>
材料試験室	56.0 m <sup>2</sup>	特殊加工室	53.7 m <sup>2</sup>
精密測定室Ⅰ	42.0 m <sup>2</sup>	放電加工・熱処理室	45.0 m <sup>2</sup>
非破壊検査室	64.0 m <sup>2</sup>	給湯室	10.1 m <sup>2</sup>
分析顕微鏡室	40.4 m <sup>2</sup>	その他	219.6 m <sup>2</sup>

### 4-2 建物平面図



## 5 設備

### 5-1 主要機械設備

区分	設備名	製造会社	型式・能力	設置年度
試験 検査	材料試験機	島津製作所	UMH-100型 (100t)	S 53
	万能材料試験機	東京衡機製造所	RU-10DA	S 56 ※
	工業用ファイバースコープ	オリンパス	IF8D4-15	S 63 ●
	ビッカース硬度計	明石製作所	AVK-C2	H 02 ●
	顕微鏡試料作成装置	丸本工業	ラボトム/フロントプレス-10	H 08 ●
	超微小硬度計	島津製作所	DUH-201S	H 08
	表面形状測定顕微鏡	キーエンス	VF-7500	H 10 ●
	ブリネル硬さ試験機	島津製作所		H 10
	三次元干渉測定顕微鏡	zygo(ザイゴ)	NEW VIEW 5010	H 11 ●
	ロックウェルスーパーフィニッシュ硬さ試験機	アカシ	ATK-F3000L	H 12 ●
	オートグラフ	島津製作所	AG-5000B	H 13 ●
	超音波探傷器	湘菱電子	UI-23D	H 14 ●
	分析走査電子顕微鏡	日本電子	JSM-6380LA/KM	H 16 ※
	デジタルマイクロスコープ	ハイロックス	KH-7700	H 21 ★
	マイクロビッカース硬度計	島津製作所	HMV-2	H 21 ★
	100TON万能材料試験制御器	島津製作所	UH-1	H 21 ★
	超音波顕微鏡	日本レーザー	SAM300	H 21 ★
	サーモグラフィー	NEC Avio	H2630	H 23 ☆
	超音波プローブ	日本レーザー	100MHz	H 23 ☆
	動ひずみ測定ユニット	東京測器研究所	TMR-222	H 23 ☆
オートグラフ制御装置	島津製作所	TRAPEZIUM2	H 23 ☆	
蛍光X線分析装置	島津製作所	EDX-8000	H 26 ※	
実体顕微鏡用デジタルカメラ	オリンパス	DP73	H 26	
熱処理	電気炉	サーマル	STL-5	H 09
	放電被覆肉盛り装置	テクノコート	パナゲポ MODEL42-50	H 11
精密加工	超精密平面研削盤	三井ハイテック	MSG-250H2	H 01 ●
	砥粒流動研磨装置	東洋エクステルメーション	Mark VII-80	H 03 ●
	ワイヤ放電加工機	西部電機	EW-A5S	H 09 ○
	NC放電加工機	ソディック	A35R	H 10 ○
	CAD/CAMシステム	サイバーテック	TOMCAD	H 10 ○
	精密自動切断機	平和テクニカ	HS-45A IIS	H 11 ○
	ドリル研削盤	細井工作所	U-nice	H 13
	ドリルタップ盤	中根製作所	NXT-13DT	H 14
	超精密万能工具研削盤	牧野フライス製作所	C-40	H 14 ●
	平面研削盤	黒田精工	GS-63PF	H 21 ★
コンプレッサー	三井精機工業	ESCAL46R	H 23 ☆	

精密測定	非接触二次元微細形状測定器	東京精密	サーフコム 920A	H 01 ●
	デジタル投影機	ミットヨ	PJ-311	H 01
	輪郭測定機	ミットヨ	CBH-400	H 02 ●
	三次元表面粗さ測定器	東京精密	サーフコム575A-3DF	H 04 ●
	CNC三次元測定機	東京精密	PA800A-V-60X	H 05 ●
	CNC三次元測定機	ミットヨ	FALCIO-Apex9166	H 18 ※
	真円度測定機	ミットヨ	ラウンドテストRA-736	H 07 ○
	工具顕微鏡	ニコンインステック	MM-100AU	H 08 ○
	工具顕微鏡用画像測定ユニット	ミットヨ		H 12 ●
	表面粗さ形状測定器	東京精密	サーフコム 480A	H 17
	マシンチェックゲージ	レニショー		H 17
	ボールバーシステム	レニショー	QC10	H 19 ※
	ダイヤルゲージ検査機	ミットヨ	アイチェッカ IC1000/KM	H 21 ★
	輪郭形状測定器	東京精密	コンタ-レコード 2600E-13	H 21 ★
	CNC三次元測定機制御器	東京精密	PA800A-V-41X	H 21 ★
	非接触三次元構造解析顕微鏡制御器	キャノンマーケティングジャパン	ZYGO	H 21 ★
	真円度測定ソフトウェア	ミットヨ	ROUNDPAK-CMM	H 23 ☆
	工具顕微鏡画像ユニット	ミットヨ	QSPAK	H 23 ☆
レーザー計測システム	レニショー	XL-80	H 27	
設計	三次元CAD/CAM/CAEシステム	PTC ジャパン	Pro Engineer WildFire	H 21 ※
	三次元CADデータ修正システム	エリジオン	CADDdoctor	H 21 ※
	非接触三次元形状測定装置	コニカミノルタセンシング	Vivid9i	H 21 ※
	ラピッドプロトタイプング装置	Stratasys Inc.	Dimension BST1200	H 21 ※
	熱流体解析システム	ソフトウェアクレイドル	SCRYU/Tetra	H 23 ※
	立体形状撮影システム	トプコン	Image Master Pro	H 23 ☆
	CAD用大型プリンター	キヤノン	Image PROGRAPH iPF 655	H 23 ☆
	試作支援加工システム	ローランド デージー	MDX-5000R	H 23 ☆
精密自動回転ステージ	シグマ光機	KST-160YAW	H 23 ☆	

※ JKA補助 ● 日本小型自動車振興会補助 ○ 活性化支援事業費補助

★地域活性化・経済危機対策交付金 ☆地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）

## 5-2 設備料金表

番号	設備名	料金単価 (円/時)	番号	設備名	料金単価 (円/時)
1	CNC 三次元測定機 (ミットヨ製)	3,305	28	NC 成形放電加工機	2,305
2	CNC 三次元測定機 (東京精密製)	3,305	29	NC ワイヤカット放電加工機	2,370
3	輪郭測定機	970	30	平面研削盤	815
4	デジタル投影機	505	31	砥粒流動研磨装置	1,245
5	真円度測定機	865	32	万能工具研削盤	755
6	三次元干渉測定顕微鏡	2,995	33	ドリル研削盤	335
7	工具顕微鏡	2,300	34	卓上フライス盤	85
8	非接触二次元微細形状測定器	2,135	35	卓上ミニ旋盤	60
9	分析走査電子顕微鏡	1,800	36	ドリルタップ盤	55
10	表面形状測定顕微鏡	1,765	37	電気炉 (18kW)	1,005
11	実体顕微鏡	730	38	放電被覆肉盛り装置	320
12	マイクロスコープ	1,445	39	表面粗さ形状測定機	410
13	工業用ファイバースコープ	215	40	マシンチェックゲージ	100
14	万能材料試験機 (100 トン)	905	41	ラピッドプロトタイピング装置	1,635
15	万能材料試験機 (10 トン)	1,595	42	CAD/CAM/CAE システム	3,840
16	オートグラフ	4,005	43	非接触三次元形状測定機	1,330
17	超音波探傷器	415	44	CAD データ変換・修正システム	1,090
18	デジタルロックウェル硬度計	360	45	超音波顕微鏡	1,235
19	ビッカース硬度計	630	46	ダイヤルゲージ検査機	420
20	マイクロビッカース硬度計	490	47	試作支援加工システム	1,445
21	超微小硬度計	2,105	48	サーモグラフィー	985
22	ブリネル硬さ試験機	325	49	CAD 用大型プリンター	1,500
23	超音波硬さ計	130	50	熱流体解析システム	955
24	反発式ポータブル硬度計	110	51	立体形状撮影システム	695
25	ボールバーシステム	665	52	精密自動切断機	610
26	試料研磨システム	425	53	蛍光 X 線分析装置	1,790
27	顕微鏡試料作製装置	490			

(平成 29 年 4 月 1 日現在)



## 6 業務実績

### 6-1 技術の向上を目的とした業務

#### 6-1-1 技術相談・指導

企業から寄せられた様々な技術相談や技術指導の依頼に対応した。

技術相談 307件（87企業）

技術指導 242件（延べ291人）

#### 6-1-2 研修会、セミナー等の実施

企業の技術の向上を目指して各種の研修会、セミナー等を開催した。

##### ① センター機械設備の取扱研修

16コース（延べ189人）

研 修 名	実施状況	
	件数	延べ人数
スモールツール操作研修	3	4
寸法公差、幾何公差、図面の見方に関する研修	1	1
ラピッドプロトタイプング装置取扱研修	1	2
二次元 CAD 操作研修	1	1
CAD/CAM/CAE システム取扱研修	1	2
CNC 三次元測定機操作研修	3	21
熱流体解析システム操作研修	4	20
技能検定・機械検査 2 級実技試験対策講座（基礎編）	2	28
技能検定・機械検査 2 級実技試験対策講座（応用編）	2	20
技能検定・機械検査 2 級実技試験対策講座（実践編）	2	20
技能検定・機械検査 2 級実技ペーパー試験対策講座（基礎編）	2	28
技能検定・機械検査 2 級実技ペーパー試験対策講座（応用編）	2	20
技能検定・機械検査 2 級実技ペーパー試験対策講座（実践編）	2	16
技能検定・機械検査 3 級実技試験対策講座（基礎編）	1	2
技能検定・機械検査 3 級実技試験対策講座（実践編）	1	2
鉄鋼材料（主な JIS 鋼材）についての研修	2	2
合 計	30	189

##### ② 技術講習会

5回（延べ104人）

講 習 会 名	参加人数	実施日
「今さら人に聞けないR○HS規制って何？」R○HS規制セミナー	11	H28. 10. 26
精密工作器機の精度検査ツールセミナー	17	H28. 11. 2
最新産業用ロボットと最新特殊加工機セミナー	22	H28. 12. 6
ステンレス鋼溶接セミナー	35	H29. 1. 24
サイバーセキュリティ対策強化セミナー	19	H29. 2. 16
合 計 5回	104	

## 各講習会の内容

<p>「今さら人に聞けないR o H S規制って何？」R o H S規制セミナー</p>	<p>2006年にEUでRoHS指令が発効して以来、10年が経過し、電子機器をEUに輸出する大手企業においては、RoHS規制の取り組みが定着した感があるが、大手企業に原材料、部品などを納入している中小企業ではまだまだその取り組みは定着しているとはいいたいが現状である。本セミナーでは、中小企業の方々にRoHS規制の基本について、蛍光X線分析装置を用いたRoHSスクリーニング分析の実践も含めて紹介した。</p>
<p>精密工作器機の精度検査ツールセミナー</p>	<p>精密工作機器の誤差の理由には、人的なミスや工具の問題など多くの原因があるが、その中で最も重要な要因が機械精度になる。新しい工作機械でも、設置場所の影響を受けたり、摩耗や衝突、誤使用による損傷が発生する。このような理由から、定期的に機械の性能チェックをすることが誤差防止には不可欠である。今回、精密工作機器の精度検査ツール（ボールバーシステムとレーザー計測システム）のご紹介と、実機によるデモ体験を実施した。</p>
<p>最新産業用ロボットと最新特殊加工機セミナー</p>	<p>一般的に産業用ロボットは自動車関連をはじめ、電気・電子部品や液晶・半導体、食品・薬品・化粧品、教育等様々な業種業態で活用されている。産業用ロボットを導入することにより単純作業からの解放や製品品質の安定・向上、システムの汎用化など様々なメリットが得られる。また、特殊加工機としての放電加工機は、最近航空宇宙産業やIT産業において高信頼性重視の部品加工を革新する技術として活用されており、レーザー加工機はファイバモジュールを用いたレーザーが普及しつつある。今回のセミナーでは、このような最新情報を導入事例を交えながら紹介した。</p>
<p>ステンレス鋼溶接セミナー</p>	<p>ステンレス鋼は耐食性、耐熱性に優れる材料特性を生かし、輸送機器、産業機器、建築、土木、精密機器、家電等様々な製品に使用されている。しかしながら、それらの製品は腐食環境や高温環境で用いられることが多いため、溶接部の信頼性が非常に重要となっている。本セミナーではステンレス鋼の材料特性をはじめ、ステンレス鋼の溶接方法及び注意すべきこと、また最新のステンレス鋼溶接技術について紹介した。</p>
<p>サイバーセキュリティ対策強化セミナー</p>	<p>情報化社会が進み、利便性や効率性が向上した反面、企業の機密情報や個人情報等を狙ったサイバー犯罪も増加しており、その手口はますます巧妙化している。我が国では、平成26年にサイバーセキュリティ基本法が施行され、また平成27年には経済産業省よりサイバーセキュリティ経営ガイドラインが策定されており、企業経営者がリーダーシップをとってサイバーセキュリティ対策を講じることが求められている。本セミナーでは、初級者レベルの方向けに、標的型攻撃被害の状況や対策の考え方、またゲートセキュリティ強化及びエンドポイント対策について紹介した。</p>

### ③ 技術セミナー

国立研究開発法人 産業技術総合研究所からフィールドロボティクス分野及びファインバブル技術分野の研究者をそれぞれ招聘しセミナーを開催した。

日 時：平成29年2月21日（火） 13：30～15：30

会 場：ホテルメリージュ延岡（延岡市紺屋町1丁目4-28）

出席者：49名

内 容：

- 「ドローンを含むフィールドロボットの活用と社会実装に向けて」

情報・人間工学領域 知能システム研究部門

フィールドロボティクス研究グループ長 加藤 晋 氏

産総研が取り組んでいる研究開発事例の中で、災害調査ロボットやインフラ点検ロボットの紹介があった。世界的に見ても、日本は地震や台風などの災害が非常に多く、

またインフラの老朽化も懸念されているため、研究が進みフィールドロボティクス技術が発展していけば、多くの現場で活躍できるとのことであった。

○「ファインバブル技術 ～歴史・経緯、基礎と応用、今後の展開～」

イノベーション推進本部 上席イノベーションコーディネータ 綾 信博 氏  
微細気泡（ファインバブル）の応用可能性について、様々な分野で高い関心が寄せられている。一方で、本講演では、ファインバブルの標準化に関する取り組みと、応用事例について紹介があった。その定義・測定方法や評価方法については、国際的に確立されていない部分が多いため、今後国際的に技術を普及させるためには国際標準化が必要である。

### 6-1-3 専門家派遣による現場指導又は技能伝承

1件（延べ4回）

企業の将来を担う人材育成のため、溶接の熟練技能者が工業高校生を対象に溶接技術の指導を行った。その結果、九州大会の個人の部で優勝及び優良賞受賞、団体部門で第3位の好成績であった。

実施日	受講学校名	アドバイザー	内 容
H28. 9. 15	県立日向工業高校	原田 芳男(株アキタ製作所)	溶接技術（被覆アーク溶接）
H28. 9. 27	県立日向工業高校	原田 芳男(株アキタ製作所)	溶接技術（被覆アーク溶接）
H28. 10. 12	県立日向工業高校	原田 芳男(株アキタ製作所)	溶接技術（被覆アーク溶接）
H28. 10. 26	県立日向工業高校	原田 芳男(株アキタ製作所)	溶接技術（被覆アーク溶接）

### 6-1-4 ものづくりに係る品質向上事業

7社（延べ10件）

企業の製造現場で使用される工作機械等の精度を維持するため、職員を企業に派遣し、現場に検査装置を持ち込んで工作機械の精度検査を行った。

### 6-2 試験研究に関する業務

県内企業と2件の共同研究を行った。1件目は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の医工連携事業化推進事業実証事業「失明回避に貢献するポータブル視野計（POLIS）の開発・事業化」で、緑内障の簡易検査装置の開発に取り組んだ。共同研究機関は(株)昭和、関西大学、大阪医科大学、(株)イナミである。2件目は、めっきに関して、当センターとの共同研究で取り組んだ。

### 6-3 設備利用に関する業務

設備利用状況・使用料領収額

設 備 名	実施状況		
	利用件数	数量（時間）	領収金額（円）
CNC 三次元測定機	85	163	538,715
輪郭測定機	39	40	38,800
ラピッドプロトタイピング装置	36	277	452,895
精密万能自動切断機	17	50	30,500
精密平面研削盤	17	45	36,675
表面粗さ形状測定機	15	17	6,970
NC 成形放電加工機	14	31	71,455
オートグラフ	14	22	88,110
試料研磨システム	14	33	14,025
顕微鏡試料作製装置	14	28	13,720
その他	103	212	147,225
合 計	368	918	1,439,090

### 6-4 依頼試験に関する業務

区 分	試料数	収入金額（円）
引張試験	51	121,380
曲げ試験	22	52,360
圧縮試験	126	192,150
合 計	199	365,890

### 6-5 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修

先進地 技術調査 (4回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第20回機械要素技術展（東京都）</li> <li>・他県における産総研との連携体制調査（福井県、富山県）</li> <li>・分析計測機器展示会（延岡市）</li> <li>・JIMTOF2016 第28回日本国際工作機械見本市（東京都）</li> </ul>
新技術導入 のための派 遣研修 (12回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像測定機及び三次元測定機用ソフト（MCOSMOS/CAT1000S, CAT1000P）講習会（神奈川県）</li> <li>・FT-IR 実機確認及び研修（京都府）</li> <li>・FT-IR 実機確認及び研修（東京都）</li> <li>・「熱流体解析システム SCRYU/Tetra 基礎コース」セミナー（東京都）</li> <li>・第1回分析技術分科会（宮崎市）</li> <li>・三次元測定機用ソフト（MCOSMOS/CAT1000S, CAT1000P）講習会（神奈川県）</li> <li>・営業秘密・知的財産権セミナー（宮崎市）</li> <li>・知財マッチングセミナー（宮崎市）</li> <li>・宮崎県工業技術センター研究成果発表会（宮崎市）</li> <li>・第2回分析技術分科会（宮崎市）</li> <li>・研究成果マッチングセミナー（延岡市）</li> <li>・組織検査用試料の作り方セミナー（東京都）</li> </ul>

## 6-6 宮崎県工業技術センター等他機関との連携に関する業務

県工業技術センターの機器を活用した情報交換や人的交流を行いながら、常に県工業技術センターと連携して技術指導、技術相談、試験研究等に取り組んだ。

## 6-7 研究会運営の支援

主に延岡鉄工団地内企業の若手経営者による研究会（チーム延岡 OX）等に定期的に参加し、技術的側面から情報提供やアドバイス等の支援を行った。

## 6-8 補助金等申請支援に関する業務

31件（延べ73回）

設備投資や研究開発のために外部資金獲得を目指している企業に対して、革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金や宮崎県産業振興機構の各種研究開発資金などを紹介、申請書作成の指導を実施した。

## 6-9 センター業務の公開・周知

### ① ホームページの更新（年5回）

6月、10月、11月、1月、3月に更新

1年間のアクセス件数：3,118件

### ② 情報誌「機械技術情報」第35号の発行（3月発行200部）

### ③ メールマガジンの発行（年9回）

9月、10月（3回）、11月、1月（2回）、2月、3月に発行

### ④ 見学受け入れ

延べ114名

## 6-10 企業巡回訪問

延べ65社

## 6-11 利用者満足度調査

センター利用のサービス水準の向上を目的として、利用者の満足度の調査を行った。利用者119名に送付し41名から回答を得た。回答結果は今後のサービス内容の改善に生かす。

## 6-12 業務推進委員会

センター運営の充実や改善を図るため、県内企業社員をセンターに招き、センターの業務内容の説明や設置されている各種機器の見学会を実施するとともに、センターに対する意見や機器設置の要望等の聞き取りを行った。今後、意見や要望をもとに、機械設備の整備や運営方法の改善を検討する。

・実施日 平成29年3月24日（金）

・参加者 県北地域の企業 12社（24名）

## 公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

本協会は県内の機械金属工業の振興を目的として、宮崎県・延岡市・日向市・門川町の出資により、昭和 54 年 2 月 17 日に設立され、平成 25 年 4 月に公益財団法人に移行し、次の事業を行っている。

- (1) 機械金属工業の技術指導及び調査研究
- (2) 機械金属工業に関する情報及び資料の収集
- (3) 宮崎県機械技術センターの管理運営
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

なお、宮崎県機械技術センターの管理運営は、平成 18 年 4 月より指定管理者制度を導入し、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項、宮崎県の公の施設に関する条例(昭和 39 年宮崎県条例第 7 号)第 10 条の規定に基づき宮崎県より委託されており、また、機械技術センター手数料等の徴収事務も委託されている。

### 役員名簿

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

評議員	迫田 隅 男	(九州保健福祉大学学長)
評議員	松下 洋 一	(宮崎大学副学長)
評議員	岡村 巖	((公財)宮崎県産業振興機構理事長)
評議員	黒木 裕 孝	((一社)宮崎県工業会専務理事)
理事長	首藤 正 治	(延岡市長)
副理事長	吉玉 典 生	(延岡鉄工団地協同組合理事長)
理事	清水 邦 彦	(日向市産業経済部長)
理事	金丸 隆 康	(門川町副町長)
理事	黒木 清	(延岡商工会議所専務理事)
理事	黒木 正 一	(日向商工会議所専務理事)
理事	山崎 司	(延岡地区建設業協会会長)
理事	甲斐 英 伸	(日向地区建設業協会会長)
理事	興梠 俊 茂	(高千穂地区建設業協会会長)
理事	片山 俊 之	(旭化成(株)延岡総務部長)
理事	津田 洋 行	(旭有機材(株)総務・人事部長)
理事	中園 徹 郎	(株)中園工業所代表取締役会長)
理事	浜松 泰 宏	(延岡市商工観光部長)
常務理事	鳥越 清	(宮崎県機械技術センター所長)
監事	柳田 隆 晴	(元門川町商工会事務局長)
監事	池田 秀 樹	(延岡市職業訓練支援センター事務局長)